

瀧田家の 廻船文書展

part 肆

講演会

瀧田家と関東地域の商人

講師：曲田浩和氏（日本福祉大学）

定員：40名 参加費：無料 会場：資料館 2階 講座室

12.7(土) 13:30-15:00

瀧田家文書を読む会

日時：11月30日(土) 10:30～

参加費：100円(資料代として)

定員：40名

会場：資料館 2階 講座室

瀧田家の 廻船文書IV

好評販売中

定価：800円



とこなめ陶の森
ホームページ

Facebook

Instagram



@TOKONAME.TOUNOMORI

とこなめ陶の森 資料館

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)《入場無料》

<https://www.tokoname-tounomori.jp>

0569-34-5290 常滑市瀬木町4丁目203番地

瀧田金左衛門について

常滑市の中心部にあたる北条きたじょうに居住した瀧田金左衛門家たき た きん さ えもん（以下、瀧田家）の始まりは、18世紀初頭と考えられています。

瀧田家が大きく隆盛したのは、四代金左衛門（安政3年〔1856〕没）、五代金左衛門（明治24年〔1891〕没）の頃です。この四代金左衛門わたなべ よ そ さ えもんは渡辺与惣左衛門家からの養子といわれ、廻船業

を始めました。四代・五代にわたって船主として船を増やし、それとともに常滑焼の窯の権利を保有するなど事業を大きく発展させました。

今回の企画展では、瀧田家が所有する船の航海と取引のうち、江戸から駿河を範囲とした関東周辺での廻船活動をおもに紹介します。

関東方面への航海

瀧田家の船は、平均的に年5～6往復の航海を行いました。その大部分は、伊勢湾周辺と関東をつなぐ航海でした。そのため、西日本への航海は年間1回程度です。

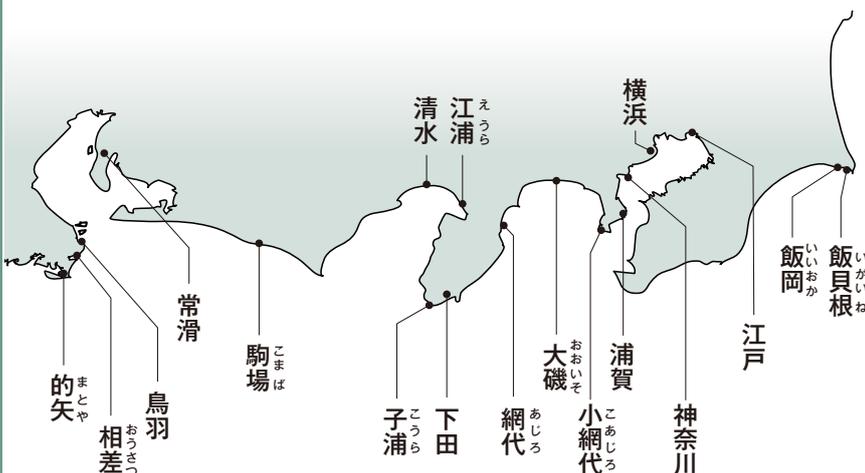
関東方面に向かう廻船は、西日本や伊勢湾周辺で荷物（下り荷）を積み、関東を目指す前に、必ず鳥羽とばや安乗（志摩市）などの湊あおりに寄港し、次は伊豆半島を目指しました。そこから江戸湾方面に進みますが、幕府が設置した浦賀奉行所うらが ぶぎょうしょで入港チェックを受ける必要がありました。検査を無事に済ませると、江戸湾内での本格的な廻船活動が始まります。瀧田家の船が寄港するのは、主に江戸・神奈川（横浜）・浦賀の三つの湊でした。

瀧田家をはじめとする常滑の船の積荷の特徴は拾い荷ひろにといわれています。拾い荷とは、種々雑多な荷物のことです。なかでも圧倒的に多かったのが米です。米は西日本や伊勢湾周辺の各湊から積み出されました。また、塩・砂糖・紙・鉄・畳表・青蕪などは西日本の特産品で、瀬戸内海沿岸

の湊から積み出されました。伊勢湾周辺地域は生産力が高く、酒・木綿もめんは全域で、茶・水油などは伊勢北部、常滑焼・瀬戸焼・瓦などの窯業製品、干大根ほしだいこんは尾張の特産物でした。つまり、瀧田家はこれらの様々な荷物を関東方面へと運ぶ大切な役割を担っていました。

関東から戻る航海で積まれた荷物（登り荷）は、干鰯ほしか・メ粕しめかすなどの魚肥ぎよひが大きな割合を占めていました。行き先も上方（大坂・兵庫）、伊勢湾周辺がありました。魚肥の次に多かったのが、大豆・小麦などの雑穀類ざっこくでした。とくに大豆は、赤味噌の原料になりました。

展示されている文書はわずかですが、『瀧田家の廻船文書Ⅳ』では、帳簿・仕切りなどの取引証文、書状などを紹介し、瀧田家と関東方面の商人による商業活動の展開を取り扱っています。



来館記念スタンプ

